

## 巻頭言——身延山大学開校にあたり

本学同窓生、本学々生諸聖、諸子の宿願であつた四年制大学の昇格は諸審査、手続を円成し昨平成六年十二月二十一日をもつて、身延山大学仏教学部として認可された。

本学の建学精神「行学二道」の行は「給仕・行法」であり、学はこの行を内容とし、この両者は相俟つて識得し信解され、更に体得色読されるものである。

仏祖三宝に対する給仕は精進・忍耐・慈譲を内容とするもので、先師は僧徒・講衆（僧俗）が妙法弘通のために互いに思い合い、思い合せ異体同心に利他の行願に乗ずることであると慈誠を加えている。

いま、社会一般が学校に求める学問は知育に偏し、徳育による人間性格の涵養を忘却している。本学の学生は弘道の法器である。精進・忍耐・慈譲の修行によって得た心地を体現し、更にこれによって信仰を確立していくことができる。いわゆる

從<sub>レ</sub>行入<sub>レ</sub>行 依<sub>レ</sub>行得<sub>レ</sub>信

行より行に入り、行に依つて信を得

このような心得、心の持ち方を学生に会得させたい。本学昇格審査にあたって行学二道の学是をのべたとき、今日の一般大学が知識偏重の教育方針をとるのは当然であるが、仏教系大学が修行精進の徳育を忘れていの中で行学二道を高調されることは現下の教育界における光明であると高い評価を得た。今、さらにわれわれは本学建学の精神をかえりみて求道給仕の精進に邁進することを誓願したい。

平成七年三月

学長 宮 崎 英 修